

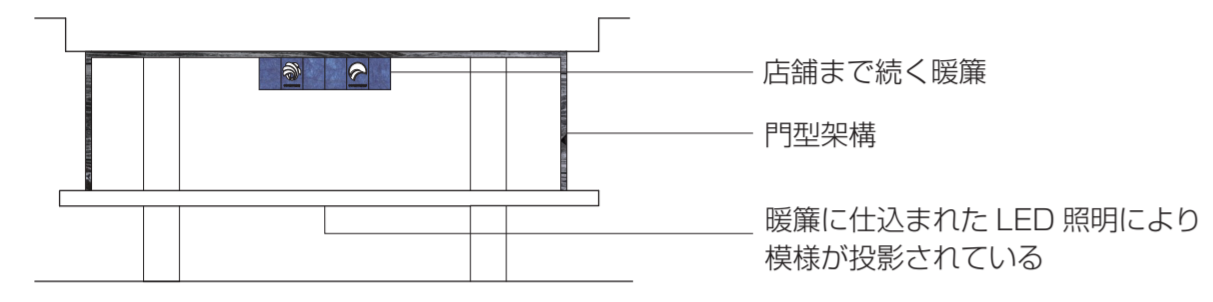
温故知新

近年、日本橋周辺の文化や歴史の影響が見直される中で、そこに根付いてきた銀座線は、大きな役割を果たす可能性を秘めている。江戸時代に道路網の始点となった日本橋周辺は、多くの大商店で賑わい、必然的に骨董品、絵画などの嗜好の文化も栄えてきた。このような交通、商業、文化という地域性を活かし、日本橋、三越前、京橋の三駅のデザインを現代の手法で提案する。

ユーザー像
東急東横線沿いに住む 20 代後半の既婚社会人男性。平日は京橋の建設会社に勤めている。休日は奥さんと買い物をする人が多い。

商 三越前駅

かつてこの地域には暖簾が連なる商店の風景が広がっていて、人々は暖簾を目印に各商店を認識していた。三越前駅では周辺事業と連携することにより、駅ホームに伝統的な暖簾文化を新しい機能性を加えて現代的に蘇らせた。ホームから始まる暖簾は、三越やコレドなどの商店への道しるべとなっている。



暖簾の模様例

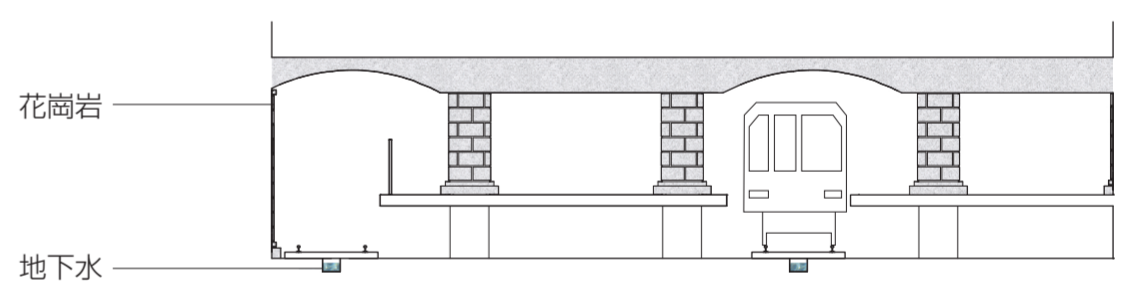


三越前駅体験：休日には、買い物好きの妻と一緒に、よく渋谷から銀座線に乗り換えて、三越前駅に直結するお店に買い物にきます。電車から下車したとたん待ち受けるホームは、まるで大商店の玄関のような独特の雰囲気、駅にも商店街の活気と繁栄を感じます。ホームから改札を通過して、店舗まで続いている暖簾に誘導さようにして三越本店へ入ります。一枚一枚暖簾をくぐりながら目的の店舗に近づくと気分が高まり、今も昔も変わらない、この地で買い物をするという喜びが溢れてきます。「せっかく三越の暖簾をくぐったんだから、たくさん買い物しちゃうかな。」という具合に、大商店街と一体となった駅のデザインは心地よい買い物体験を誘発してくれます。帰りの電車に乗るころには充実感と共に何か物寂しさすら感じて、また銀座線三越前駅に來たいと思わせてくれます。



道 日本橋駅

かつて日本橋の下を往来していた船のように、アーチ架構の下を電車が走り来す。船と取って代わった地下鉄の重要性、特に東洋初の地下鉄として開業した銀座線の画期性を象徴する。線路の下を流れる地下水を下から照らし、橋の下のような神秘的な空間を作ると同時に、今まで注目されることがなかった地下水に新しい活躍の場を持たせる。

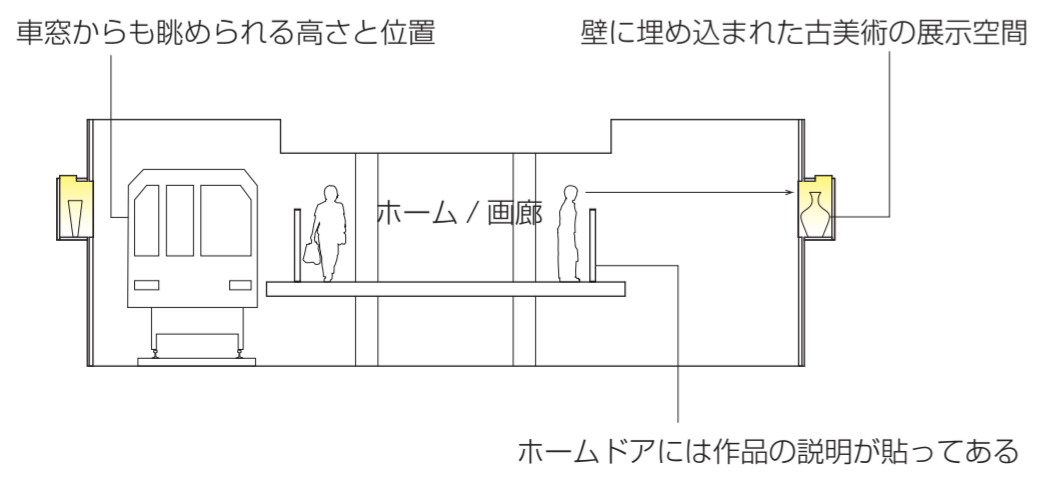


橋下空間 / 線路 柱 / ホーム 橋下空間 / 線路 柱 / ホーム

日本橋駅体験：建築を見て回るのが趣味で、伝統建築を見るために日本橋駅に下車することが多いのですが、その神秘的な駅の意匠性には、訪れる度に必ず感動を覚えます。ルネサンス式で一枚一枚丁寧に張り巡らされた石のタイルと、それに反射する地下水の模様は、日本橋の構造と水運を模した、地域性を象徴するものとなっていて圧倒的です。日本橋と銀座線とが共に歩んできた結びつきと繁栄の歴史を、身肌を以て感じ再発見できます。「やはり日本の交通の要は一味違うな。今度会社の友人も連れて来よう。」といった具合に、駅を訪れること自体がステータスと感じられるような場所性を帯びています。日本の建築の意匠性の可能性に胸が躍りわくわくする場所です。

文 京橋駅

商店の活性とともに、この地域には古美術の文化が自然発生した。京橋駅では周辺事業者と連携を取り、ホーム階と改札階の細長い空間形状を活用して、骨董品と絵画を展示する。今も秘かに継承されているこの文化を、訪れる人々に伝えている。



京橋駅体験：いつも仕事のために下車する銀座線京橋駅。ホームの壁に埋め込まれたショーウィンドーには、地上で古美術を扱う店舗の骨董品などが展示されています。また改札を出たところにある回遊性のあるコンコースにも、地上の画廊のイベントと提携した絵画が展示されていて、毎日電車からちょっとした美術館に降り立ったような気分になります。これらの美術品は、地上で何か展示イベントが催されるタイミングで入れ替わり、駅構内に地上のホットな展示会の情報を伝達しています。「おや、展示されている美術品が変わったぞ。なにに、あの店舗で展示会があるのか。ちょっと会社帰りに覗いてみよう。」といった具合に、駅の構内の雰囲気は定期的に変化するもので、毎日通っていても飽きずに楽しいです。また、地上にあって訪れたことのない小さな美術館を訪ねるきっかけを作ってくれて、新たな京橋を発見する楽しみとなっています。

商業エリア共通デザインのサイン